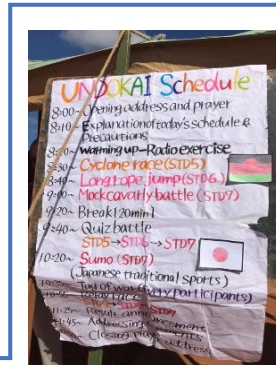


# マラウイ通信

渡邊拓人 17-2  
行政サービス  
ドーワ県立病院

【トウクトウク】  
皆さんは乗ったことありますか。東南アジア等で多く見られるオート三輪タクシーの事です。アフリカ、マラウイでも首都などの都市部では多く走っているのを目にします。以前紹介した、ミニバスやチャリマトよりは少し料金が長く長距離の移動には不向きですが買物後などの重い荷物を抱えている時や急いでいる時などによく利用しています。また、定員が2名なので割り勘すると結構安い値段で使用できます。しかし、地元のマラウイ人よりは外からの方が利用している傾向があるので、初めの値段交渉時には運転手のほとんどが相場より高い金額を提示してきます。(特に外国人には高い)です。ので毎回倒れくさいのですが、現地語を使ったり強気で金額を指定したりと駆け引きが必要です。最近では駆け引きも慣れてきて、一瞬で決着をつける事が出来るようになってきました。役場から中学校までの距離で約千クワチャ(150円)で行けば安いほうだと思います。ときどきドライバーの意向で他のお客さんとシェアさせられることもあります。(料金はそのまま)とにかくこっちのドライバーは強気の人が多いです。時には「乗せてやっっている」というような態度をとるドライバーもいます。また車にも共通してますがフロントガラスが割れている車がほとんどなので、安全運転をしてくれる事をいつも願い使用しております。



【UNDOKAI】マラウイには運動会というイベントはありませんが、今回学校隊員の有志によるUNDOKAIが開催されました。マラウイ北部に位置するカスング県内の選ばれたプライマリースクールの3校による対抗戦の開催となり、会場は大盛り上がり熱狂の渦に包まれました。マラウイの子供たちにとっては日本の様に運動会・持久走大会・文化祭等の行事ごとがあまり無いので、今回の様なUNDOKAIに参加することは凄く貴重で嬉しい事です。一種目毎に喜びを爆発させ日本で見る運動会とは少し違った雰囲気でした。今回私はサポート役として参加することが出来ましたが、また一つ貴重な体験となりました。



片足は裸足。  
片足は靴下。



ラインはトウモロコシの粗穀



必死の綱引き

この日の為に猛練習。

女子の方が強かった。

最近になりやっと心から生活に慣れてきたと感じます。今日までの約8ヶ月間を振り返り何が一番大変だったかと考えると、それは水・電気や食べ物といった生きるために必要な事に関する問題より対人からのストレス等が大きかった様に思えます。日本に住んでいた頃は、街中で外国人を見ればカッコいいと思ったり、怖い、うるさい、マナーが悪い、あるいは自由で良いなと感じたり、でも、それは人種やイメーজで人を見ていたなど凄く感じました。そして、ついジロジロと見てしまったり不快な思いをさせてしまっていた事もあったかもしれませぬ。現在、マラウイに住み街中を歩くと「アズング、チャンチュン」などと人種差別を表すような言葉を浴びせられます。自分が人種差別を受ける立場となり色々と気付く事もたくさんありました。最初は本当にイライラもするし嫌だったのですが、マラウイ人には悪気が無い事に気が付き自分が勝手に怒っていたのだと少し反省しました。相手はなんて話しかけていいのかわからず、ただ仲良くなりたかっただけなのです。活動中の病院内でも同様で、初めはジロジロと見てくる患者との距離をとっていました。しかし、患者と触れ合うようになってからは、自分のこれまでの固定概念がこうした状況の中を複雑にしていたのだなと気が付き気が少し楽になりました。国や文化は違えど、結局同じ人間だという事を知ることができ、私生活と仕事の双方が一步前進できた様に感じます。